

Our Life 132 号

- ＊ 内 容 ＊
- 第13回日本福祉文化学会静岡大会から、19年間の「福祉文化研究セミナー」の道程 …P.1
 - 日本福祉文化学会HPとリンクした「本会ブログ」のアクセス急増 ……………P.3
 - 「ご近所福祉その意識と実態調査票」753枚回収、ここから何が見えるか……………P.3
 - 「第3回公開型研修会開催案内」「事務局日誌拝見」「編集後記」……………P.4

第13回日本福祉文化学会静岡大会から、19年間の「福祉文化研究セミナー」の道程 2020年度は「日本福祉文化学会中部東海ブロック研修会」と共に “ホッとする、ご近所のささえあいは誰が創る？”を語り合う

「ホッとする、ご近所のささえあいは誰が創る？」をテーマに、人々がささえあいながら、住み慣れた地域で暮らし合う地域環境をいかにして創り出すか、地域の現状をしっかりと把握しながら、「共助」による福祉コミュニティ構築に向け、改めて、「福祉を文化にする、静岡発 福祉文化の創造」（豊かに暮らせる身近な地域づくりを日々努力する）の学び合いを、「第19回静岡県福祉文化研究セミナー」（日本福祉文化学会中部東海ブロック研修会）で10月25日（日）で議論し合った。

(1)「いま、なぜ、福祉文化か」その原点を学ぶ場 (2)「静岡発 福祉文化の創造 19年のセミナーの道程」を学ぶ場 (3)「ご近所福祉その意識と実態調査研究活動」から学ぶ場 (4)「コロナ禍後のご近所福祉」考える場 (5)世代を超えて、楽しく地域づくりを語り合う環境（地域総合型学習）を実践する場の5つの着眼項目をこのセミナーで掲げ、日頃、地域で精力的に実践されている参加者は、その熱い思いを語り合った。

「プログラム」の展開では、

1. アイスブレイク：「若者発 ご近所福祉かるた」活用した自己紹介

- (1)あらかじめ、配布した「かるた」（「読み札」と「絵札」）を確認。
- (2)「名前」「住所」「居住年数」を紹介し、配布した「かるた」の内容に基づき、参加者のご近所について「ご近所福祉の捉え方」「ご近所の現状」「ご近所での実践活動」等を5分程度、自己紹介をご披露。

2. 円卓トーク：「ご近所福祉に関わって一言」

- (1)「アイスブレイク」の話題をさらに広げて、本音で語る。
- (2)「若者発 ご近所福祉かるた」からご近所を語る。
- (3)「ホッとする こんなご近所福祉をめざす」決意表明を語る。

☆☆ご近所福祉調査の経過と参加者の意見を集約☆☆

上記の「1. アイスブレイク：「若者発 ご近所福祉かるた」を活用した自己紹介」「2. 円卓トーク ご近所福祉に関わって一言」のそれぞれから、参加者からの意見を次の25の項目に集約した。



1. 子どもを通じて地域とのつながりが出来るが、高齢者世帯や単身世帯だと、つながりが薄くなる。
2. 若者が、いかにして年配者とつながることが出来るか、それぞれの立場で相互理解し、努力していくことが求められる。
3. 過去には、どの地域にも、「お節介屋さん」がいた。「お節介屋さん」の復活も、地域で孤立しがちなニーズが生じている今日、その存在が必要に感じる。
4. 転入転出の多い新旧混住地域（新興住宅／街部）では、最近、ご近所づきあいの難しさを感じる。こうした、世帯や人の動きが多い地域では、その都度、「紹介し合う」機会を設ける努力をし、お互いに知り合うことに努力が必要である。
5. それぞれ「地域性」があり、決して真似事はできない。「子育てサロン」を重視しなければならない地域では、若い世代層の関りの努力と工夫が必要である。
6. いかに地域を「見える化」するか。 広報誌の発行に努めているが、こうした領域に関心がないと誰もが出来ものではない。広報誌の発行目的をしっかりと持ち、地域を知ってもらう努力をすること。
7. 身近な生活圏域において、高齢者の大きな困りごとではなく、小さな困りごとをお互いに出し合い、手伝う環境を創る努力することが大切である。
8. 居場所は、上から言われてつくるものではない。 住民自身が必要と思われて初めて機能する。女性だけのサロンが中心となっている今日にあって、男性も居場所を求めていることも事実である。男性には、屋外型居場所の発想提案をし、汗をかきながらひと時を過ごす取り組みは意義がある。
9. 尊い家庭介護が、今、地域活動に活かされている。住民には、実社会の中で実体験することが大切である。
10. 最近では、「ボランティア」の存在が薄い。 “チョイボランティア”の参加を募る努力が必要。
11. 今日、各地で「子供会」組織が衰退している状況の中で、「子供会」に関わることで、そこから地域のことを学び、理解することがある。
12. 子どもたちに手伝いの機会が少なくなった。意図的に手伝いの機会をつくる家庭・地域環境が必要である。
13. 障害のある方々に、地域活動の参加できる機会を地域社会で創ることが必要である。
14. 基本は足元福祉。 「身内福祉」抜きにして、「他人福祉」はあり得ない。
15. 地域のきめ細かなふくし課題を専門領域につなぐ「トータルコーディネーター機能」を果たせる人材が求められる。 地域の介護事業所等の組織化をはかり、地域社会に向けた働きかけをし、地域全体の「福祉力」を高める「専門性と市民性の融合」の仕組みが必要。
16. 個別福祉ニーズの課題を解決する仕組みから、家庭・家族の福祉ニーズへの対応が今日必要となっている。
17. 個人情報保護やプライバシー問題が先行のため、課題解決に至らない。専門家集団では「調整会議」等が挙げられているが、当事者にとって、改善解決には何が必要かの本心を把握していくことが大切である。
18. 問題があれば、専門機関を紹介する今の仕組みの中で、一番必要なことは、日常的に、語れる環境を近隣地域住民が努力することが大切である。
19. 「介護保険はお守りにしたい」と、若者に向かって言い続けてこられた「大石さきさん」（103歳で他界・おばあちゃん劇団主宰）。今の長寿者は、あまりにも、社会や家族に甘えている。 もっと、保護的、依存的な考えから脱皮しなければと訴え続けてこられた。 長寿者の自立が必要。
20. 長寿者は、常に援助が必要の視点で社会が認識している。長寿者にも役割を持つ社会の仕組みが必要。見守りされるだけでなく、見守る役割の出来る、地域環境と仕組みを意図的に創る社会が求められる。
21. 生活圏域で身近な福祉問題を語り、そこから発見し、改善解決につなげる仕組みは、決して、専門領域だけの取り組みではなく、地域コミュニティ組織の中にしっかりと組み入れていくことが重要である。
22. 地域住民の意見（ニーズ把握）を常に把握していく地域コミュニティ組織運営の確立が求められている。身近な地域の組織団体間調整連携の構築が問われる。
23. 出来る限り、住民の生活圏域に近いささえあいの仕組みの構築必要。理想は「向こう三軒両隣」の精神。
24. 学校教育領域では、学校教育目標に「思いやる心」が合致していることから、児童生徒は、それなりに、成長とともに発達段階に応じた「福祉の心」は養われている。地域も積極的に学校に働きかけて、学校教育（理論）で学んだことを地域社会で実践できる「学びは地域全体」が必要。しかし、大人社会となると、一般社会では「教育」という仕組みはなくなり、どのようにして「教育と福祉の融合」が、実社会の中で役割を担っているのか不透明である。30代から50代の住民の意識と実態は、地域社会から離れた現状ではないかと危惧する。「教育」とりわけ「地域ぐるみの福祉教育の再構築」が求められている。
25. 役員が変われば活動が変わる発展しない活動体から、真に「住民主体」の活動が維持され、発展していくための「小地域活動計画」の取り組みを働きかけたい。

● 日本福祉文化学会 HP とリンクした「本会ブログ」のアクセス急増 ●

7月19日開催された「日本福祉文化学会理事会」（オンライン会議）において、学会 HP と本会ブログのリンクを承認していただき、8/3以降、毎日、データのアップを努力している。連携を図っている「焼津港 ささえあい講座」「焼津福祉文化共創研究会」と共に、広くアクセスカウントが、最近急増している。

12月5日現在の状況は、下記の通りである。

	港地域ささえあい講座	静岡福祉文化を考える会	焼津福祉文化共創研究会
8月 3日	11, 214	885	3,543
12月 5日	18, 655 (+7,441)	9,318 (+8,433)	14,113 (+10,570)
	1日約62件	1日約70件	1日約88件

<https://blog.canpan.info/shizuoka-fukushi/>

2020年度調査研究活動事業 人・家族・地域がつながり合う、これからの“福祉力”を探る
「ご近所福祉その意識と実態調査票」753枚回収、ここから何が見えるか

25周年記念事業として取り組んでいる「ご近所福祉その意識と実態調査」活動は、「焼津福祉文化共創研究会」との協働により、調査項目・調査票検討（6月～9月に定例会・委員会及び調査研究会等で検討）、調査票まとめ（9月12日）、調査実施期間（9月12日～10月31日）、回収期間（10月1日～11月27日）と、県内各方面からの協力により、順調に作業が進んでいる。今回の調査研究活動では、厳しいコロナ禍を契機に、これまでのご近所の支え合いを把握し、今後の「ご近所福祉」のあり方について考察し問題提起をする。

11月27日をもって、調査回収を終わった。その内訳は下記の通りである。

	会 員	市町社会福祉協議会	地域実践者	施設・団体・企業	総 数
依頼領域数	170	225	738	40	1, 173枚
回収実績数	85	75	553	40	753
パーセント	50. 0%	33. 3%	74. 9%	100%	64. 2%

	東部地区	中部地区	西部地区	計
回収実数	158枚	473枚	122枚	753枚
	21. 0%	62. 8%	16. 2%	100%

● 「ご近所福祉 その意識と実態調査」平成23年度・平成28年度・今回のデータ比較 ●

「ご近所福祉その意識と実態」をテーマに、これまで、平成23年度・平成28年度・今回と関連した内容を約五年間隔で継続的に取り上げ考察している。下記の設問項目について、単純集計の対比結果を紹介する。

▲ あなたは、「地域活動」参加協力の呼びかけがあったとき参加しますか。

	平成23年度	平成28年度	令和2年度	前年度比
①積極的に参加をする	21%	13%	20%	+8%
① 呼びかけがあれば参加する	62%	62%	67%	+5%
② あまり関心がない	13%	17%	10%	-7%
③ 参加しない	4%	5%	2%	-3%
④ NA	0%	3%	1%	-2%

*コロナ禍下、地域活動への参加協力は、5年前の結果より13%「参加意向」の回答結果が出ている。

▲設問 19 あなたは、地域の行事や活動に参加していますか。

	平成28年度	令和2年度	前年度比
①積極的に参加している	20%	25%	+5%
②時々参加している	48%	54%	+6%
③ほとんど参加していない	28%	19%	-8%
④NA	4%	2%	-2%

●ぜひ、ご参加ください。第3回公開型研修会 テーマは「これで安心 私のご近所福祉」

＊期 日：令和3年2月14日（日）13:00～16:00

参加費:無料 定員:20名

＊会 場：静岡県総合社会福祉会館1階 104 会議室（〒420-8670 静岡市葵区駿府町 1-70 ）

- ＊内 容：(1) 基調報告 「ご近所福祉その意識と実態調査」から見えたものは何か
(2) 紹 介 「“若者発 近所福祉かるた” で学ぶ実践事例」
(3) 円卓トーク「これで安心 私のご近所福祉」

○参加申し込み・問い合わせ：〒425-0041 焼津市石津751-1 静岡福祉文化を考える会 代表 平田厚 TEL&FAX054-624-1924

事務局日誌拝見(7/19 ~ 12/19)

- 7/19「日本福祉文化学会第1回理事会」にて、学会HPと本会ブログとのリンクを承認いただく
7/20「ご近所福祉その意識と実態調査活動」の「調査個票」及び「調査実施要項」作成作業
8/01「みずほ教育福祉財団」助成事業（プロジェクター及びスクリーン）決定に伴う器材納品あり
8/08「第17回（8月）焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催（調査票内容協議）
8/14「第3回焼津福祉文化共創研究会IT部会」開催（学会HPとのリンク、調査活動）
8/25「OUR LIFE 131号」編集・発行し、関係機関・団体等にメール送信作業実施
8/29「あしたの日本を創る協会」「太陽生命厚生財団助成事業」「不採用」通知届く
9/04「第4回焼津福祉文化共創研究会IT部会」開催（学会HPとのリンク、調査活動）
「鈴与マッチングギフト助成事業申請書」提出
9/12「第18回（9月）焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催（調査データ入力作業協議）
9/19「第19回静岡県福祉文化研究セミナー（日本福祉文化学会中部東海ブロック研修会）」開催案内文書、「ご近所福祉その意識と実態調査」依頼文書等発送作業（700枚・70か所）
10/03「第5回焼津福祉文化共創研究会IT部会」開催（学会HPとのリンク、調査活動）
10/17「第19回（10月）焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催（調査データ分析作業協議）
10/25 第204回委員会開催（調査研究活動、当面の活動に関する協議）
「第19回静岡県福祉文化研究セミナー（日本福祉文化学会中部東海ブロック研修）」開催
11/08 ・あしたの日本を創る協会より「季刊誌：まちむら134号」寄贈あり
11/11 焼津福祉文化共創研究会主催「第6回IT部会」にて、調査研究事業経過報告と考察協議
11/14 鈴与マッチングギフト助成事業不採用の通知有
11/15 焼津福祉文化共創研究会主催「居場所検証報告研修会」開催（調査実施状況報告）
11/16 調査票回収締切日 最終調査票回収753枚 クロス集計作業に入る
11/21「第20回焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催（調査分析作業—その1—実施）
11/27 調査票のクロス集計作業完了 「報告書」執筆作業に入る 日本福祉文化学会理事会開催
12/12 第21回焼津福祉文化共創研究会定例研究会」開催（調査分析作業—その2—実施）
12/19 焼津市港第14自治会第12町内会歳末たすけあい事業協力「OUR LIFE 132号」発送作業

●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか。

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の平成8年9月1日に発足し、2020年度に25年の節目を迎えました。さらに、「静岡発 福祉文化の創造」が定着していけるように努力してまいります。

本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「公開型地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、さまざまな分野で活動している会員が、地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

◇ 会費：社会人3,000円 大学生以下1,000円

◇ 問い合わせ：420-0841 静岡市清水区追分3-5-17

NPO法人泉の会内 静岡福祉文化を考える会事務局

Tel054-367-2878 Fax: 054-367-2884

編 集 後 記

2020年度も残り3カ月限りとなった。何とも、コロナ禍で明け暮れてしまったが、いろいろとこれからの福祉文化活動のあり方を考える機会にもなった。活動財源確保の為に、あらゆる方面から、情報を取り寄せ、「福祉文化活動」で地域づくりの問題提起を試みようとしたが、決定には至らなかった。しかし、25周年の記念すべきこの一年は、特に「調査研究活動」に重点をおき、「焼津福祉文化共創研究会」との協働により、厳しい社会状況の中で、753枚の貴重な調査票の回収ができたことは嬉しい限り。この結果を大切に次年度につなげたい。